

〔 所 報 〕

I 昭和39年度春季所員総会は、第I部長内田義彦教授の帰朝報告会を兼ねて、5月19日午後1時30分より、神田第2会議室で開催した。

(1) 総会に先立って、内田教授より、イギリスにおけるA・スミス全集の刊行計画や“ヨーロッパ大陸における「スミ素的」なるもの”の探求を中心とする旅行談、とくに「サン・シモン」の影響など、興味深い報告を伺った。

(2) ついで、2時40分より所員総会に移り、多数の所員の参加のもと(A)山田所長の開会の辞に始まり、運営委員追加、および新所員委嘱(『月報』7号参照)・所長所感、(B)事務局経過報告(総括・月報・資料)および8年度会計報告を行い、承認(C)議事に移り(ⅰ)新年度予算案(総額120万円)、(ⅱ)専任事務員の件、(ⅲ)実態調査・グループ研究に対する研究費配分などが審議された。その結果、本年度社研予算は、120万円の中で実行すること、グループ研究は、若干の申込予定があるため、次の運営委員会で決定すること、実態調査の計画案を6月下旬迄に決定すること、さらに、社研の月例(全体)研究会を新たに組織することなどが決定された。(后5時15分終了)

II 第3回事務局会議を5月11日開催。春季所員総会が経済学部懇親会の都合により、繰上ったため、大会準備に急ぎ着手した。特にグループ研究募集の徹底方を計った。第4回事務局会議を5月19日、所員総会終了後開催。事務分担(『月報』7号参照)を確認し、今後の事務局会議開催方法などを検討した。

III 所員総会の決定により発足をみた月例研究会は、ひきつづき第2回を、次のように予定しておりますので、ふるってご参加下さい。なお適当なテーマ・講師の案がありましたら事務局の望月・山田(克)・森田・宮田迄お申越し下さい。

日 時 7月3日(金)午後1時より4時まで

場 所 神田第1会議室

講 師 社研所長 山田盛太郎教授

テーマ 戦後再生産構造の段階と農業形態

(テキスト-同名の山田教授の論文〔経済企画庁経済研究所・地域構造研究会・総括報告〕をあらかじめお読み下さい)

< 編集後記 >

1. 何とか、1ヶ月のおくれを取戻すべく編集子は全力をあげている。夏休み中も毎号出したので、投稿原稿にも「高度成長」が期待できないものであろうか？
2. 去る5月25日、京都の同志社大学人文科学研究所入江節次郎教授が来訪され、私立大学の社会科学研究所のあり方について意見を交換した。同志社の場合は年間、1,200万円の予算という龐大な研究機関であるが、研究目的が不明確なために体系的研究が実現し惜いとの由、専大社研は予算規模の拡大が第一とはいえ、そのような危機は絶対に回避しようと信じている。
3. 前々号以来、所員の研究活動は次の通り。

(論文)

内田義彦「緒論」および「スミス『国富論』体系」(内田義彦・小林昇・宮崎義一・宮崎厚一編『経済学史講座』第1巻、有斐閣、5月刊)

吉田洋一「リカードウ経済学形成の時論的背景」(同上、所収)

宮崎義一「経済政策の主体と機能」(山中篤太郎・豊崎稔監修『経済政策講座』第1巻、有斐閣、4月刊)

長 幸男編および解説『実業の思想』(現代日本思想大系第11巻、筑摩書房、5月刊)

小林健吾「原価の本質と製造間接費配賦」(『産業経理』5月号)

(学会報告)

小林健吾「シュマーレンバッハ・共同経済的生産性と経営価値原価計算」(日本経営学会関東部会報告)

小林健吾「直接原価計算と財務会計」(日本会計研究学会全国大会報告)

4. 前7号掲載の森田論文に脱落がありましたので、以下のように補正して下さい。執筆者ならびに読者に深くお詫び致します。

(誤) 8頁三行目……国際収支の動向は国内の景気・物価が……

(正) ……国際収支に敏感に影響を与え、国際収支の動向は国内の景気・物価の運動を制約する。各国の景気・物価が…… (事務局 加藤記)

東京都千代田区神田神保町3の8

専修大学社会科学研究所 電話 (262) 3671~5

(発行者) 山田盛太郎